

3. 高知市地域公共交通計画 素案

(1) 施策体系

(2) 主な施策・具体的な取組

3. 高知市地域公共交通計画 素案

(1) 施策体系

3. 高知市地域公共交通計画 素案 | (1) 施策体系

(1) 高知市の概要(2) 運行データ等の概要 及び「高知県あり方検討会」を踏まえた課題と対応すべき重点項目

対応すべき重点項目

01 人口減少や地域特性に対応した公共交通ネットワークの構築

02 電車・バスの利用促進と市民の公共交通に対する意識の醸成

03 新しい技術やDXの活用

04 公共交通を支える担い手の確保

05 需要に応じた新たな交通モードの検討

06 路面電車施設・整備の老朽化及び耐震化への対応

07 公共交通を継続的に支える財源・費用負担の仕組みの再構築

08 公共交通による人口カバー率の向上

09 効率的なバスネットワーク構築のための拠点づくり

基本目標

01 多様な交通モードの共創による最適なネットワークの構築

- ① コンパクト・プラス・ネットワークに対応した多様な交通モードによる公共交通網の再編
- ② 公共交通の持続性を高める計画的な施設・設備更新
- ③ 公共交通を支える担い手の確保

02 交流と賑わいを呼び込む公共交通の利用環境の充実

- ④ 賑わいを生む交通拠点の整備
- ⑤ 誰もが移動しやすい交通環境の整備
- ⑥ 観光資源としての公共交通の活用

03 快適かつ円滑な移動サービスの推進

- ⑦ 安全安心で快適な待合環境の整備
- ⑧ デジタル技術を活用した公共交通の利便性の向上
- ⑨ 利用促進や意識醸成につながる広報・啓発の充実

3. 高知市地域公共交通計画 素案 | (1) 施策体系

3

計画期間 2027（令和9）年度～2031（令和13）年度 5年間

計画区域 高知市全域

基本方針 共創と連携でバターミックスな未来を創る 高知市型の公共交通

施策体系

基本目標	施策	取り組み
【基本目標1】 多様な交通モードの共創による 最適なネットワークの構築	1 コンパクト・プラス・ネットワークに対応した多様な交通モードによる公共交通網の再編	・ 地域の実情や利用状況に応じた路線、ダイヤ、運行サービス水準の見直し ・ デマンド型乗合タクシーの運賃・便数・経費の適切な設定 ・ 県交北部交通、高知東部交通運行バスとの接続・連携による再編検討 ・ 病院・教育・自動車学校などの送迎車両を活用した移動サービスの検討 ・ 地域主体のコミュニティ交通やライドシェアなどの導入・運営体制のしくみづくり ・ 自動運転バスなどの導入可能性の検討 ・ 地域住民や関係団体が地域の移動を支える仕組みの検討 ・ 路面電車を軸としたバス路線の再編
	2 公共交通の持続性を高める計画的な施設・設備更新	・ 線路設備（レール及び枕木等）の更新ペース向上 ・ 車両更新ペースの向上 ・ 鏡川橋梁及び変電所（3か所）の耐震化 ・ 電車・バスの車体広告、ネーミングライツの継続
	3 公共交通を支える担い手の確保	・ 新たな人材（自衛隊や消防OB、女性、外国人等）採用促進に向けた広報の強化 ・ 運転しやすい小型車両の導入、短時間勤務など柔軟な働き方制度・処遇や福利厚生 ・ 勤務体系やダイヤの見直しによる休日の確保 ・ 地域住民や関係団体が地域の移動を支える仕組みの検討
【基本目標2】 交流と賑わいを呼び込む 公共交通の利用環境の充実	4 賑わいを生む交通拠点の整備	・ 量販店を活用したパーク＆ライドの推進 ・ 量販店を対象としたサイクル&ショップライドやサイクル&バスライドの推進 ・ 新県民体育館建設に合わせた電車・バス待合施設の改良 ・ 朝倉駅の電停移設に伴う交通結節機能の強化検討
	5 誰もが移動しやすい交通環境の整備	・ 超低床車両導入ペースの向上、電停のバリアフリー化推進 ・ デジタルサイネージによる音声案内、車内施設の充実 ・ バス車両の低床化、バス停の段差解消や歩道のかさ上げ ・ ユニバーサルデザインタクシーの導入促進、手摺や通行空間の確保
	6 観光資源としての公共交通の活用	・ 交通情報案内の多言語化 ・ 公共交通で行ける観光モデルルートの設定 ・ 観光地や商業施設と連携した企画乗車券の検討 ・ 電車車両、沿線景観などを生かした観光企画の検討
【基本目標3】 快適かつ円滑な移動サービスの推進	7 安全安心で快適な待合環境の整備	・ 利用の多いバス停の上屋の改良と老朽バス停の計画的な更新 ・ 待合環境の改善（サポーターベンチ等の設置検討） ・ デジタルサイネージの整備によるリアルタイム運行情報の提供 ・ 乗降者数の多い電停の上屋改良 ・ ノーガード電停の視認性向上などの安全対策
	8 デジタル技術を活用した公共交通の利便性の向上	・ マイ時刻表の充実・利用促進、ICOCA導入、デジタルチケットの推進 ・ タクシー配車アプリの利用促進
	9 利用促進や意識醸成につながる広報・啓発の充実	・ 分かりやすい路線設定 ・ SNSを活用した利用促進 ・ おきゃく電車、外国電車、ダイヤモンドクロッシングの活用 ・ 乗り方教室、出前講座の実施 ・ 路線沿線の住民に向けたリーフレットの配布等

3. 高知市地域公共交通計画 素案 | (1) 施策体系

■ 令和7年度 第3回高知市地域公共交通会議で示した施策からの変更点

基本目標	施策
【目標1】 多様な交通モードの 共創による交通ネット ワークの最適化	1 鉄道や路面電車を活かした広域交通の機能強化
	2 分かりやすいバス路線網の再構築
	3 新たなモビリティ交通の導入
	4 生活交通ネットワークの確保・維持
【目標2】 交流と賑わいを呼び込む 交通ターミナル 機能の形成	5 モビリティハブの機能強化
	6 バス停・電停等の利用環境の改善
	7 サイクルアンドライドの推進
	8 パークアンドライドの推進
【目標3】 利用者視点による快適 かつ円滑な移動 サービスの利便増進	9 電車・バス・タクシー車両の改善
	10 ダイヤ・便数・運賃等の見直し
	11 デジタル技術を活用した移動サービスの提供
	12 イベントや情報発信による広報活動



基本目標	施策	変更内容
【基本目標1】 多様な交通モードの共創による 最適なネットワークの 構築	1 コンパクト・プラス・ネットワークに対応した多様な交通モードによる公共交通網の再編	旧施策1、2、3、4、10を統合
	2 公共交通の持続性を高める計画的な施設・設備更新	旧施策4のうち財源の確保についてと今後の施設・設備整備について追記
	3 公共交通を支える担い手の確保	旧施策4のうち担い手不足の確保について
【基本目標2】 交流と賑わいを呼び込む 公共交通の利用環境の 充実	4 賑わいを生む交通拠点の整備	旧施策5、7、8を統合「賑わいを生む」を追記し対象をより明確にした
	5 誰もが移動しやすい交通環境の整備	旧施策9に目標として「誰もが移動しやすい」を追記
	6 観光資源としての公共交通の活用	「観光」を新たな視点として施策を追加
【基本目標3】 快適かつ円滑な 移動サービスの推進	7 安全安心で快適な待合環境の整備	旧施策6に「安全安心で快適な」を追記し整備目標を明確化
	8 デジタル技術を活用した公共交通の利便性の向上	旧施策11に「公共交通の利便性の向上」と目的を明記
	9 利用促進や意識醸成につながる広報・啓発の充実	旧施策12に「利用促進や意識醸成につながる」を追記し目標を明確化

2. 高知市地域公共交通計画 素案

(2) 主な施策・具体的な取組

基本目標 1 多様な交通モードの共創による最適なネットワークの構築

施策① コンパクト・プラス・ネットワークに対応した多様な交通モードと輸送資源を活用した公共交通網の再編



施策の背景

- ・人口減少や高齢化が進む中、都市機能を拠点に集約するとともに、拠点間及び拠点と地域を公共交通で結ぶ「コンパクト・プラス・ネットワーク」の形成が求められている。
- ・乗務員不足が深刻化する中、既存の交通モードだけでは、市民の移動手段を将来にわたり確保することが困難となるおそれがある。このため、**交通事業者、行政、地域、病院・教育等の関係機関が連携し**、路面電車、路線バス、デマンド型乗合タクシー等の既存の交通モードに加え、**地域や民間が有する輸送資源を有効に活用**していく必要がある。
- ・路線バスを補完するデマンド型乗合タクシーは、運行エリアやサービスの拡大に伴い利用者数が増加する一方、タクシー乗務員の減少等により、**運行事業者の負担は増大**している。



施策の目的

- ・既存の交通モードは効率化を目指すとともに、地域や民間が有する輸送資源、新たな移動サービスを効果的に組み合わせ、**地域の実情と移動ニーズに応じた持続可能な公共交通ネットワークを構築**する。



施策の方向性

- 都市計画と連動した公共交通ネットワークの形成
- 地域特性に応じた運行形態の導入
- 地域や民間との連携による移動手段の確立
- デマンド型乗合タクシーの持続可能な運行体制の構築
- 広域交通と地域内交通との接続・連携の強化



具体的な取組

【既存交通の効率化】

地域の実情や利用状況に応じたバスの路線、ダイヤ、運行サービス水準の見直し
デマンド型乗合タクシーの運賃・便数・経費の適切な設定
県交北部交通、高知東部交通運行バスとの接続・連携による再編検討 (NEW)

【新たな輸送資源の活用】

病院・教育・自動車学校などの送迎車両を活用した移動サービスの検討
地域主体のコミュニティ交通やライドシェアなどの導入・運営体制のしくみづくり (NEW)
自動運転バスなどの導入可能性の検討



自動運転バス

基本目標 1 多様な交通モードの共創による最適なネットワークの構築

施策② 公共交通の持続性を高める計画的な施設・設備更新



施策の背景

- ・「高知県路面電車あり方検討会」において、**路面電車を幹線とした交通ネットワークを構築する方向性**が示されたことにより、今後、高知県と沿線市町で電車の存続に向けた取組みを推進していく。
- ・路面電車の事業継続にあたっては、**車両61台の平均車齢が60年と古く**、また、日本一長い軌道線距離（25.3km）を有していながら、**更新ペースが300m/年と十分ではない**。そのほか、**鏡川橋梁及び変電所（3か所）の耐震化**が課題となっている。
- ・路面電車事業を継続していくためには、**更新ペースの向上や計画的な耐震化工事の推進**が必要となり、あり方検討会においても、国の補助金制度を活用しながら**高知県及び沿線市町で協調して支援していく**こととしている。
- ・高知市においては、安全・安心に係る学校整備等にかかる予算の増大、元利償還金の増加等による負担増、人口減少により事業所税の確保が困難となるなど**今後さらに厳しい財政状況となる予測**である。



施策の目的

- ・高知県及び沿線市町と協調し、路面電車の**施設・設備更新と耐震化を推進し、基幹幹線である路面電車を存続させる**。



施策の方向性

- 沿線自治体と協調した路面電車施設・設備の更新と耐震化の実施
- 高知市の厳しい財政状況を踏まえた資金調達策の検討



具体的な取組

【施設・整備更新】

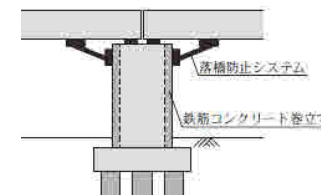
線路設備（レール及び枕木等）の更新ペース向上（NEW）
車両更新ペースの向上（NEW）

【耐震工事】

鏡川橋梁及び変電所（3か所）の耐震化（NEW）

【資金調達策】

電車・バスの車体広告、ネーミングライツの継続



↑ 鏡川橋耐震 対策手法イメージ

基本目標 1 多様な交通モードの共創による最適なネットワークの構築

施策③ 公共交通を支える担い手の確保



施策の背景

- ・乗務員や技術員等の担い手不足と高齢化が進展し、バスの減便や路線の廃止が相次ぐ中、市民の移動手段の確保が困難な状況となっている。
- ・乗務員の確保・育成や健康管理、車両の点検、整備等を通じて、安全で安定した運行を維持するとともに、新たな移動サービスを導入・運営するためにも、必要な人材を確保することが求められている。
- ・このため、交通事業者と行政は、人材確保に向けて、働きやすい職場環境の整備や公共交通の仕事の魅力発信に取り組む必要がある。
- ・また、国では自家用有償旅客運送など、行政、交通事業者、地域住民、NPO、福祉・医療関係者などが連携して地域の移動を支える制度や取組が進められている。交通事業者だけでなく、地域住民や関係団体など、多様な主体が地域の移動を支える仕組みを構築する必要性が高まっている。



施策の目的

- ・公共交通を担う人材の確保・育成・定着を図り、将来にわたり安定した公共交通サービスを維持する。



施策の方向性

- 多様な人材が活躍できる環境の整備
- 働きやすい職場環境の整備
- 地域や関係機関と連携した担い手の確保



具体的な取組

【多様な人材】

新たな人材（自衛隊や消防OB、女性、外国人等）採用促進に向けた広報の強化（NEW）
運転しやすい小型車両の導入（NEW）、短時間勤務など柔軟な働き方制度（NEW）

【職場環境】

処遇や福利厚生充実（住宅支援等）（NEW）
勤務体系やダイヤの見直しによる休日の確保（NEW）



基本目標2 交流と賑わいを呼び込む公共交通の利用環境の充実

施策④ 賑わいを生む交通拠点の整備



施策の背景

- ・とさでん交通では、公共交通の利用促進に加え、中心市街地における交通渋滞の緩和や温室効果ガスの削減などを図るため、主要な電停やバス停の周辺において**パーク&ライド**や**サイクル&ライド**を実施し、自家用車や自転車から公共交通への乗換えを促進している。今後も、利用ニーズや公共交通との接続性を踏まえ、**新たな実施場所を確保**する必要がある。
- ・令和13年度に完成予定の**新高知県民体育館**については、アクセスを担う電停、バス停の乗降・待合環境を充実させるとともに、周辺施設と連携し、**地域の回遊性向上やにぎわいの創出**につなげることが求められる。



施策の目的

- ・**交通結節機能の強化**と交通拠点を中心とした**にぎわいの創出**を図る。
- ・交通手段相互の乗継ぎや乗降・待合環境を改善し、**利用者の利便性を高める**。



施策の方向性

- 商業施設との連携による公共交通の利用促進と地域の活性化
- 交通拠点における乗り継ぎの利便性や待合環境の向上
- 周辺施設と連携した賑わいの創出



具体的な取組

- 【P & R】 量販店等を活用したパーク&ライドの推進(NEW)
- 【C & R】 量販店等を対象としたサイクル&ショップライドやサイクル&バスライドの推進
- 【施設整備】 新高知県民体育館建設に合わせた電車・バス待合施設の改良(NEW)



サイクルアンドバスライド イメージ図

基本目標2 交流と賑わいを呼び込む公共交通の利用環境の充実

施策⑤ 誰もが移動しやすい交通環境の整備



施策の背景

- ・高齢者や障がい者、子育て世帯、外国人、観光客など、多様な人が公共交通を利用しており、誰もが安全・安心かつ円滑に移動できる環境が求められている。
- ・段差の解消、分かりにくい案内表示、乗り換えの不便さなどにより、**公共交通の利用に不安や制約を感じる人がいることから、車両、停留場、案内などの利用環境を改善する必要がある。**
- ・**車内における安全で快適な移動環境の確保**も必要であり、乗降・待合環境と車内環境の両面から、公共交通を利用しやすい環境を整備することが求められている。



施策の目的

- ・**年齢や障がいの有無等にかかわらず、誰もが移動しやすい公共交通環境を整備**する。



施策の方向性

- 車両や停留場などのバリアフリー化の推進
- 多様な利用者の意見を反映した利用環境の改善
- 安全で快適な車内環境の整備



具体的な取組

- 【車両】 バス車両の低床化
電車低床車両導入ペースの向上 (NEW)(再掲)
ユニバーサルデザインタクシーの導入促進 (NEW)
- 【車外】 バス停や電停のバリアフリー化の推進
デジタルサイネージによる音声案内、多言語対応など (NEW)
- 【車内】 手摺設置や通行空間の確保



↑ 導入済みの超低床車両



↑ 電停のバリアフリー化

基本目標 2

交流と賑わいを呼び込む公共交通の利用環境の充実

施策⑥ 観光資源としての公共交通の活用



施策の背景

- ・外国クルーズ客船の寄港や新たなホテルの建設が相次いでおり、今後、国内外からの**観光客の増加や観光ニーズの多様化**が見込まれる。
- ・「MY遊バス」の運行ルート以外で路線バスや路面電車を利用して訪れることができる観光施設や商業施設への公共交通による周遊を促進し、**地域の多様な魅力に触れる機会を創出**することが求められている。
- ・高知の路面電車は、現存する路面電車の中で最も古く、また、多彩な車体広告や特色ある車両が高知らしい都市景観を形成していることから、その歴史的・文化的価値を広く発信し、沿線施設等との連携により観光客の周遊促進につなげることが求められている。



施策の目的

- ・観光客が、路線バスや路面電車などを利用して**円滑に周遊できる環境**を整える。
- ・公共交通そのものが有する魅力も観光資源として活用し、観光客の周遊促進を図るとともに、**地域の活性化につなげる**。



施策の方向性

- 観光客に分かりやすいアクセス情報・乗換情報の提供
- 多様な観光客のニーズに応じた情報発信
- 観光や地域の商業施設との協働によるサービスの充実
- 路面電車の魅力を生かした観光周遊の促進



具体的な取組

- 【情報提供】 **交通情報案内の多言語化 (NEW)**
ウェブサイトやSNSを活用した情報発信
- 【サービス】 **公共交通で行ける観光モデルルートの設定 (NEW)**
観光地や商業施設と連携した企画乗車券の検討 (NEW)
- 【イベント】 電車車両、沿線景観などを生かした観光企画の検討

バス発車案内 BUS Departure Guide		発車時刻 Time 10:39
高松市役所 takamatsushiyakusho		
発車時刻 Departure Time	系統・行先 (経路等) Route/Destination (Via)	乗換情報 Bus Location
10:46	レインボー循環バス 車通り Rainbow (循環) 高松市役所 (本番車) レインボー循環バス 東通り Rainbow (循環) 高松市役所 (本番車)	→
10:50	下宮原線 下宮原 13号弦羽 (県庁・日赤前 宮脇町経由) 行き 13号弦羽 (高松市役所) (高松市役所)	→
10:53	レインボー循環バス 西通り Rainbow (循環) 高松市役所 (西通り) レインボー循環バス 西通り Rainbow (循環) 高松市役所 (西通り)	→

↑ 多言語対応のデジタルサイネージ
(ことでんグループ)



【忍者ラテアートサービス付き】
一日フリー乗車券 (伊賀鉄道)

← サービス付きの乗車券

基本目標3 快適かつ円滑な移動サービスの推進

施策⑦ 安全安心で快適な待合環境の整備



施策の背景

- ・ 電車やバス停等の待合環境の充実は、公共交通の利用促進や、継続的な利用につながる重要な取組である。**案内表示の不足**に加え、雨風や暑さ、寒さによる**待ち時間の負担**などが課題となっている。
- ・ また、**上屋や標識などの老朽化が進んでおり**、計画的な更新が必要である。



施策の目的

- ・ 乗降・待合環境や車内環境を改善し、**公共交通の安全性、利便性及び利用者満足度の向上**を図る。



施策の方向性

- 分かりやすい運行情報・利用案内の充実
- 施設の適切な維持管理と計画的な更新
- 安全で快適な乗降・待合・車内環境の整備



具体的な取組

- 【バス停】 利用の多いバス停の上屋の改良と老朽バス停の計画的な更新
待合環境の改善（サポーターベンチ等の設置検討）（NEW）
- 【電停】 デジタルサイネージの整備によるリアルタイム運行情報の提供（NEW）
乗降者数の多い電停の上屋改良
ノーガード電停の視認性向上などの安全対策

整備前



↑ バス停の改修

整備後



↑ デジタルサイネージの例

基本目標3 快適かつ円滑な移動サービスの推進

施策⑧ デジタル技術を活用した公共交通の利便性の向上



施策の背景

- ・デジタル化の進展に伴い、公共交通分野においても、**利便性の高いサービス**が求められている。
- ・とさでん交通では、電停・バス停の時刻表や運行状況をスマートフォンで確認できる「**マイ時刻表**」を提供している。また、交通ICカード「**すか**」から全国相互利用やコンビニ等でのチャージに対応した「**ICOCA**」への移行が進められており、これらの**サービスの充実と利用促進**が必要である。
- ・タクシーについては、乗務員不足などにより、利用したい時間帯に配車が難しい場合があることから、**地域配車アプリ「こちタク」を活用し、効率的な配車につなげる**必要がある。



施策の目的

- ・デジタル技術を活用し、運行情報の提供やキャッシュレス決済の導入など**利用者の利便性を高める**。
- ・同時に**交通事業者の業務効率化**を図る。



施策の方向性

- 必要な交通情報を簡単かつ迅速に入手できる環境の整備
- キャッシュレス決済など利用環境の充実
- デジタル技術を活用した運行・配車業務の効率化



具体的な取組

【交通情報】

マイ時刻表の充実・利用促進
デジタルサイネージによる音声案内 (NEW) (再掲)

【利用環境】

ICOCA導入 (NEW)、デジタルチケットの推進 (NEW)

【タクシー】

地域配車アプリ「こちタク」の利用促進

【新たな輸送資源の活用】

自動運転バスなどの導入可能性の検討 (再掲)



↑こちTAXIアプリ「こちタク」



↑ ICOCAの設置イメージ

基本目標3 快適かつ円滑な移動サービスの推進

施策⑨ 利用促進や意識醸成につながる広報・啓発の充実



施策の背景

- ・人口減少と自家用車への依存により、公共交通の利用は減少し続けているが、高齢者や学生など、公共交通を必要とする方は今後も一定存在することから、**公共交通の利用を促進し、公共交通を持続していく必要がある。**
- ・時刻表や乗換方法、運行状況などの情報に加え、**バスの路線や行き先が分かりにくいことが、公共交通を利用する上での課題の一つ**となっている。市民意識調査でも「交通」に対する市民満足度は全50施策中最下位。
- ・また、公共交通を将来にわたって維持していくためには、**市民一人ひとりが公共交通を地域全体で支える移動手段として捉える意識**を育むことが重要である。



施策の目的

- ・利用者の立場に立った分かりやすい情報提供を行い、**円滑な利用につなげる。**
- ・公共交通に対する理解と関心を高め、公共交通を**地域で支える意識を醸成**する。



施策の方向性

- 分かりやすい情報提供
- 多様な媒体やイベントを活用した利用促進
- モビリティマネジメントの推進



具体的な取組

- 【円滑な利用】 路線再編時には分かりやすい路線を設定
- 【利用促進】 SNSを活用した利用促進
おきゃく電車、外国電車、ダイヤモンドクロッシングの活用
路線沿線の住民に向けたリーフレット等の配布
- 【意識醸成】 乗り方教室、出前講座の実施
学生等と連携した路面電車やバスを活用したイベントの実施



↑ イベント等における広報活動